

close-up!

海の恵みに想いを込め…

アルギン酸製造で

「Best in The World」を目指す

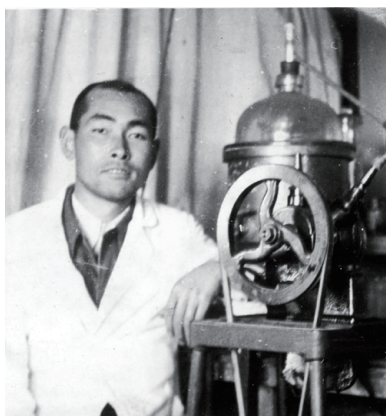
株式会社 キミカ

海藻に含まれるネバネバ成分の天然食物繊維「アルギン酸」の製造で国内シェア80%を超え、食品・医薬品グレードでは世界のトップ企業という株式会社キミカは、1941（昭和16）年に千葉県君津郡で創業しました。代表取締役社長の笠原文善（かさはらふみよし）氏にこれまでの歩みと今後についてお聞きしました。



代表取締役社長 笠原文善 氏

太平洋戦争で出征した中国南方戦線で病に倒れ、復員後に療養のため千葉県の君津に長期滞在していました。その際に浜に打ち上げられていた海藻から塩化カリウムやヨウ素などを抽出する事業を興し、やがて海藻に含まれるネバネバ成分の天然食物繊維「アルギン酸」に着目し、これを利用する研究を始めたのがきっかけです。



創業者 笠原文雄氏

——会社の経営を引き継がれたのは1984年でしたね。
はい。父が急逝し私が27歳のときに引き継ぎましたが、この頃はエルニーニョ現象で原料の海藻が入手困難になり、粗悪で安価な中国製品が出回るようになったり、東京湾の環境規制で主力工場である千葉プラント（富津市大堀）の

——アルギン酸にはどのような用途があるのでしょうか。
自然由来の安心安全なものですので、食品・医薬品・化粧品・繊維加工、飼料や肥料など、幅広い分野で利用されています。皆様の身近なところでは、アイスクリームの口溶けを良くする気泡の安定剤、パンや麺の食感を良くしたり、ゼリーを固める増粘剤、落ちない口紅や胃で溶けない錠剤でも使われています。また1950年代には鋳型を固める粘結剤にも盛んに利用されていました。当社ではお客様の用途に応じて、さまざまな仕様に製造しています。



千葉プラント（富津市大堀）



活発な雰囲気の社内

排水処理に多額の投資が必要になったり…といった最悪の状況でした。
さらに、自然由来であるのが食品添加物はすべてが悪という風潮が高まり、取引先の食品メーカーから敬遠されるという試練もありました。幸い現在はWHO（世界保健機関）の食品添加物委員会での

アルギン酸が「最も安全な添加物」にリストアップされ、「食の安心安全を担保する」という考え方から、安全性がわっているものを全面表示した上で利用するのが企業の務めという流れに変わってきました。

——大変な八方塞がりはどう打開されましたか？

「アルギン酸のパイオニア企業なのだから、世界で一番になろう」と考えました。当時はアメリカやヨーロッパに当社の数十倍規模のアルギン酸メーカーがありましたので、トップは無理でもベストにはなれるはず…ということで「Best in the world」を会社の旗印にしました。



広大なチリ工場

そして製品の安定供給と国際競争力向上のため、1989年に南米のチリに新たな生産拠点となる工場を建設しました。チリの海藻は量も品質も世界一です。驚かれる方もいらっしゃると思いますが、当社は生きた海藻を刈り取ることはせず、海岸に漂着した海藻を原料に使用して自然保護に努めています。
チリの工場稼働から1年後のことですが、世界最大のアルギン酸メーカーだった米国企業から事業連携を持ちかけられました。そこで「絶対にノーと言わない」ことを信条に、依頼のあった仕事は全部引き受け、年々その量は増えていきました。その結果、この企業は2005年に主力工場を閉鎖し、高付加価値のアルギン酸エステルの生産は当社に全面委託されました。
ライバル企業だからと正面切って戦うよりも「してあげる」ことで、やがてなくてはならない関係を築くというのは教訓になり、その後は中国のメーカーとも良好な関係を築いています。

——2016年には東京商工会議所主催の「第14回勇氣ある経営大賞」の大賞を受賞されました。

アルギン酸一筋、積極果敢に挑戦してきた当社の取り組みが評価されたことは、社員にも大きな喜びになりました。いただいた賞金は後世に残るものにしたいと、社歌「帆をあげて」と、キミカスピリッツの歌「Best in the world」の2曲を作り、君津のホテルで発表会を行いました。ぜひYouTubeでお聴きになってください。



高純度サブリから子供に人気の実験セットまで幅広い製品を開発

株式会社 キミカ

本社所在地：東京都中央区八重洲2-4-1
ユニゾ八重洲ビル TEL：03-3548-1941
千葉プラント：富津市大堀1029 TEL：0439-87-1131
事業内容：アルギン酸、キトサンなどのマリンバイオポリマーならびにその応用製品の製造販売
創業：1941（昭和16）年5月11日
従業員数：173名（キミカグループ合計378名）
ホームページ：https://www.kimica.jp/

——今後の会社のビジョンをお聞かせください。

医療用素材としてアルギン酸を活用することを推し進めていきたいと思っています。昨年、ある製薬会社が、内視鏡で早期消化器がんを切除する際の粘膜下注入材としてアルギン酸ナトリウムの粘性を利用した製品を発売しました。医療機器として承認を受けるまでに長い年月がかかりましたので、これにはひとしおの思いがあります。今後は再生医療の分野でもアルギン酸製品が利用されていくと思います。

また高純度のアルギン酸カルシウムを抽出・精製してカプセルに詰めた食物繊維のサプリメントを販売しているほか、子供向け玩具・教材として「イクラ風ゼリー実験キット」を作り、さまざまなイベントでお配りしていますが、毎年夏休みの終わりになると全国から通販の注文が殺到しています。